



北の森も 林も 国有林

迎春



千尺高地から望む「羊蹄山」
ようてい



国民の森林・国有林

北海道森林管理局

新年のご挨拶



より豊かな姿で次の世代に
北海道森林管理局長 黒川 正美

平成28年の新春を迎え、
謹んでご挨拶を申し上げます。

北海道森林管理局が管理する304万ヘクタールの国有林は、北海道の土地の約4割に相当し、広大であるのみならず、多面的な機能を発揮する非常に豊かな森林です。

北海道森林管理局は、この森林を、国民共通の財産として、世代を超えたさまざまなニーズに

えられるよう、持続的な管理経営に努めるとともに、より豊かな姿で次の世代に引き継ぐことを使命としております。

新しい一年におきましても、職員一同、全力で、北海道国有林の有する公益的機能の高度発揮、森林資源の循環利用と関連産業の成長等に取り組み、林業の成長産業化や地方創生等に貢献して参ります。

公益的機能の高度発揮につきましましては、昨年、世界自然遺産登録10周年を迎えた知床をはじめとする原生的な森林生態系の保全・管理や、レブンアツモリソウやシマフクロウなどの希少野生動物の保護管理、河川周辺国有林のきめ細やかな保全管理、関係行政機関などと連携したエゾシカの

個体数調整などに取り組みんで参ります。

また、近年の自然災害の多発傾向も踏まえ、山地災害発生時の迅速な対応や荒廃地の早期復旧にも万全を期して参ります。

森林資源の循環利用と関連産業の成長については、人工林資源が成熟しつつある中、道内の林業・木材産業が、森林資源を活かした競争力のある産業として発展できるように、新たな取組に挑戦する事業体などに対する安定供給に努めるとともに、木質バイオマス発電需要の本格化に伴う需要増に対しても、計画的な販売や未利用資源の有効活用などにより、安定供給に貢献して参ります。

また、人口減少と地方創生に政府一体となって取り組んでいる中、森林・林業分野における地域のニーズへの対応や課題の解決に主体的かつ積極的に取り組み、成果を上げていくことが一層重要と考えています。

職員一人一人の技術力や組織力を高め、地域にどのような貢献ができるのか、地域の方々と十分に対話を重ねながら取組を進めていきたいと思っております。

本年も北海道森林管理局の業務運営への一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご清福を祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



北海道森林管理局

2015年の主なできごと

1～6月



北海道森づくりフェスタ 2015



標津町川北地区
森林共同施業団地



エゾシカ活用セミナー



北の国・森林づくり
技術交流発表会

◆六月◆
・「社会貢献の森」植樹祭

◆五月◆
・北海道森づくりフェスタ
二〇一五開催
・国民の森づくり感謝状
の贈呈

◆四月◆
・北海道国有林の主な取組
記者発表

◆三月◆
・エゾシカ活用セミナー
・「標津町川北地区森林共
同施業団地」を設定
・地域管理経営計画等に關
する懇談会

◆二月◆
・平成26年度国有林間伐推
進コンクール表彰
・「見て？知ろう！国有林
にくらす希少な生き物た
ち」パネル展

◆一月◆
・平成26年度 北の国・森
林づくり技術交流発表会
・木育ひろば in チ・カ・ホ
・上川中部森林管理署庁舎
移転

7～12月



国有林モニター現地見学会



バットの森づくり植樹祭



知床国立公園 50年・
世界遺産 10周年記念式典・講演会

◆十二月◆
・国有林材供給調整検討委
員会

◆十一月◆
・知床世界自然遺産地域
エゾシカ・陸上生態系 WG
会議他

◆十月◆
・植樹祭 in わっさむ
・きのこを知って楽しもう
く写真展&無料鑑定会

◆九月◆
・お魚を殖やす森づくり植
樹祭
・子ども樹木博士認定会
・国有林モニター現地見学
会二〇一五

◆八月◆
・札幌水源の森づくり二〇
一五
・知床世界自然遺産地域科
学委員会

◆七月◆
・知床国立公園50年・世界
遺産10周年記念式典・講
演会
・カルチャーナイト二〇一
五
・バットの森づくり植樹祭
・わくわく子ども見学デー

◆七月◆
・知床国立公園50年・世界
遺産10周年記念式典・講
演会

「釧路地域民有林への列状間伐の普及」

地域課題の解決に向けた取組

根釧西部森林管理署

先人たちが植えて育てた多くの人工林が利用期を迎えており、地域の森林資源を活かして「地域再生」に結び付けることが期待されています。

そのためには森林資源を循環利用するなどして林業を成長産業化させることが重要になっていきます。

一方、地域の林業においては、労働力の不足、小規模な所有形態が多い、生産コストが高く採算性が低いなどの課題があります。

釧路地域の民有林の間伐は、一回目は列状で実施しているものの、二回目以降は定性が多くチェーンソーで行っており、高性能林業機械の導入があまり進んでいない状況です。

採算性の向上やかかり木の発生を未然に防止し、木材の安定供給にも繋げるため、低コスト高



【高効率作業システム現地見学会】

効率作業システムを二回目以降の間伐にも普及させる必要があると考えました。

振興局林務課などとも協議のうえ、平成二十六年度は、間伐の採算性の向上と労働安全の確保を目的に「民有林への列状間伐の推進」を課題と定めました。

国有林の四回目間伐箇所、民有林関係者等と連携して、高性能林業機械による列状間伐の現地見学会を開催しました。

かかり木の発生も少なく、残存木の損傷も少ないこと、多少地形が悪くても作業方法等の工夫で、安全で効率よく作業できることを確認し、引き続き、列状間伐の推進や低コスト化に関する技術的な情報の発信を行うこととしました。

平成二十七年度は、前年度の取組に加えて、将来の造林作業と林業の低コスト化を目的として「繰り返し利用可能な堅固な森林作業道の作設」を課題と決めました。

作設技術の向上を普及させるため、先ず、当署の素材生産請負事業者の作設技術を向上させて、路網構想や作設に活用することで地域林業の低コスト化の実現を目指すこととしました。

取組にあたっては、六月の当署の事業説明会において、その趣旨説明と作設基準などの講義を行



【森林作業道作設現地検討会】

い、各社の現場で作設してもらいました。

ハーベスタなどが林内で作業することを想定し、森林作業道の作設延長を極力短くするなど、路網配置などの指導を行いました。

十月には現場代理人やオペレーターが参加して各社の現場七箇所で開催した点について意見交換を行い、技術の向上に結び付けました。



【工夫して作設された森林作業道】

参加者からは、「このような機会がないと他社の作設現場を見る機会がないので勉強になった。他社の良いところは採り入れて技術を向上させたい。」との意見もあり意欲的でした。

引き続き、国有林のフィールドや技術を活用して、地域林業の課題の解決に向けて、民国連携して取り組むことといたします。

センター通信

知床森林生態系保全センター



「エゾシカによる食害」

知床森林生態系保全センターは、知床半島の貴重な森林生態系の保全や適切な自然地域の利用を促進するための業務を行っています。

主な業務は①魚類を遡上させるための河川工作物の改良の検討、②エゾシカ捕獲事業、③自然地域の適正利用の推進(登山歩道の巡視等)、④市民参加によるエゾシカ被害森林の再生活動と環境教育、⑤自然環境モニタリング(魚類遡上調査やミズナラ堅果結実調査など)を行っており、今回は冬に本格的に実施するエゾシカ捕獲事業をご紹介します。

現在、北海道全体でエゾシカによる森林植生・農作物への食害が問題になっていますが、知床半島でも特定の植物種の減少や樹皮剥ぎによる樹木の枯死など、生態系上の悪影響が現れています。

そこで、知床のエゾシカを適切な個体数に調整するため、関係機関が連携し、平成25年度から、世界自然遺産の隣接地域でエゾシカ捕獲事業を行い、これまでに162頭を捕獲しました。

捕獲事業は、大きく分けて「囲いワナ」と「銃猟(モバイルカリングなど)」の2通りの捕獲方法を採用してきました。

囲いワナは、その名のとおり鋼製パネル等で囲いを設置し、その中にエサを撒きエゾシカをおびき寄せて捕獲する方法で、経費はかかりますが、銃を使わないので比較的安全であり市街地や公道近くでも捕獲できるメリットがあります。

また、生け捕りが可能である利点もあり、養鹿施設を保有する民間事業

者にエゾシカを引き渡すことで処理経費の削減を図るとともに、事業者からは体重等個体データをフィードバックしてもらい、科学的な管理に繋がっています。

モバイルカリングは、林道の出入り口を封鎖して安全を確保し、エサでおびき寄せたシカを車上から射撃して捕獲する方法で、比較的経費が抑えられますが、銃器を使うためより徹底した安全管理が必要で

す。平成26年度に試行的に実施し7頭を捕獲しましたが、エゾシカの警戒心がとても強く、エサを食べるまで4日間程かかりました。

十分なエサ誘引期間を確保しないと捕獲数は伸びないと実感しました。

知床半島には多数の希少鳥類が生息しており、営巣に影響を与えないように、銃猟による捕獲は慎重に行う必要があるため、囲いワナによる捕獲をメイン手法としていますが、前述したとおり経費が高かかってしま

ます。

そのため、鳥類研究者の意見をききながら、実施可能と判断した場所ではモバイルカリングなど銃猟捕獲も実施する形をとっています。

堅調にも見えるエゾシカ捕獲ですが、エゾシカは繁殖力が強く、年20%のペースで増えるとともに、温暖化によりますます自然死が少なくなると言われています。

短期の結果に満足せず、民間活力を利用するなど、低コストで長期的に捕獲圧を加えることのできる仕組み作りが今後の課題です。

「エサに誘引されたエゾシカ」
(モバイルカリング)



こんにちは 森林官です!

十勝西部森林管理署
東大雪支署
森林官(新得担当区)
菅田 健太郎



十勝西部森林管理署東大雪支署は、北海道のほぼ中央部に位置している「裏大雪」と呼ばれる大雪山系の南側エリアを管轄しています。

多くが大雪山国立公園エリアになっていますが、新得森林事務所は管内では珍しく国立公園エリア外にある森林事務所です。新得町の国有林約一万五百haを管理しており、佐幌岳を中心に南北で森林の雰囲気が大きく分かれるのが特徴です。

佐幌岳の南側は、新得町の市街地から近く、町に沿う様に南北に伸びているため里山のような雰囲気があります。

シラカバやナラなどの若い木が天然更新で多く発生しており、全体的に若々しい印象を受ける森林が多くみられます。

一方、佐幌岳から北側の大雪山国立公園に近いエリアは、天然のエゾマツやダケカバなどの大木が乱立する、原生林の空気が漂う森林がみられます。

「根曲がり竹」と呼ば



担当区最北端(奥の山は下ホロカメットク)

れるチシマザサやクマイザサに覆われ、強風や積雪など自然環境も厳しく、施業が困難な場所も多く存在します。

また、もう一つの大きな特徴として「大雪・日高緑の回廊」があります。

「緑の回廊」とは、開発により分断された野生動物などの居住環境を、森林によって接続することで移動経路を確保し、森林生態系の多様性を保護する目的で指定されています。

新得森林事務所は、「大雪山森林生態系保護地域」と「日高山脈森林生態系保護地域」を結び、「大雪・日高緑の回廊」でも一番細くなっている部分

を管轄しており、管轄面積の65%が「森林の架け橋」としての役割を担っています。

森林事務所では、間伐適齢期に達した造林地から木材を生産する「製品生産事業」と、今後の施業の必要性や、森林の状態を把握する「地林況調査」を実施しています。

このほか造林事業や、林道を維持するための路面の修繕作業、土地の境界線を保全する作業、高校生による林業体験など、様々な現場業務を行っています。

最近では爆弾低気圧や台風・大雨などの自然災害が多く、林道機能の維持が非常に困難になってきており、日頃からの林道維持・修繕作業が重要になってきています。

最後になりますが、以前、日高南部森林管理署御園東森林官を担当していた頃、日高山脈の大自然の中で日々業務を行っておりました。急峻な崖が連続する、切り立った山々は人の開発を受け付けず、現在でも多くの貴

重な野生動物植物が生息しています。

現在担当している新得担当区でも、大雪山系の一端を担うエリア故に、他ではなかなか見られない大径木や、希少野生動物、ヒグマやクマゲラなどを良く目にします。

両方の森林生態系保護地域で仕事をさせていたため、「大雪・日高緑の回廊」を担当することに深い縁を感じます。

今後様々な機能を発揮する森林を目指し、適切な森林施業を実施出来るよう、自己研鑽しながら業務にあたって参ります。



屈足・新得森林事務所前にて
右から2番目が菅田森林官



各地からの便り

「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

森林施業技術等

現地検討会

【置戸町・網走中部署】

11月26日、置戸町と協定を締結している「置戸地域森林共同施業団地」の国有林内において、「森林施業技術等現地検討会」を開催しました。

この検討会は、森林作業道作設や低コスト高効率作業システム等の普及を図ることを目的として国有林の素材生産請負事業実行現場において、置戸町・新生紀森林組合に参加していただきました。森林作業道作設や列状間伐を実施した箇所において視察を行い、国有林での取組みに対して活発に意見交換がされました。



木工教室を開催

【浦河町・日高南部署】

11月13日、浦河町立堺町小学校からの依頼を受け、「木工教室」を開催しました。

この木工教室は、「自然の木材を使って手作り木工体験をすることで普段使っている木工品がどのように作られているかを理解してもらい、同時に木のありがたみを知ってもらおうこと」を目的に開催されたものです。

丸太切り体験やコースター・表札などの作製は、児童に木工品の暖かさを感じ、木材の大切さを知ってもらう良い機会になりました。

中学生職場体験学習

【白老町・胆振東部署】

11月10日から11日にかけて白老町立白老中学校2年生2名が、胆振東部署を訪れ職場体験学習を行いました。

白老中学校では、実際の職場で仕事を体験させることを通じて、やりがいや苦労を実感させて生徒自身の進路に対する意識を高めることを狙いとして、町内の各施設において職場体験学習を実施しています。

職場体験学習では、森林の役割の説明を受けたり、実際に現場に行き、高性能機械による伐採の様子を見学しました。



好天に恵まれ植樹祭

【苫前町・留萌南部署】

11月2日、苫前町古丹別の緑ヶ丘公園において、苫前町及び留萌中部森林組合との共催による苫前町植樹祭が行われました。今年は、総勢約50名の参加者があり、エゾヤマザクラ60本を公園内に植樹しました。

植栽箇所はかなり固かったことから、あらかじめ機械で掘っていたので、スムーズに作業ができました。心地よい汗を流すことができ、この地域がサクラでいっぱいになるよう大事に育てていきます。



平成28・29年度「国有林モニター」の募集

林野庁北海道森林管理局では、国民の皆様には国有林の役割や現状などをご理解いただくとともに、国民の幅広い意見を把握し国有林野の管理経営に役立てるため、平成28・29年度の「国有林モニター」を募集しております。

募集人員：48名

依頼期間：平成28年4月～平成30年3月までの2年間

**依頼内容：国有林モニター会議・現地見学会への出席や
国有林や森林・林業に関するアンケート調査への回答**

募集期限：平成28年2月26日（金曜日）【必着】

応募資格、応募方法など、詳しくは北海道森林管理局HP（下記参照）をご覧ください。もしくはお問い合わせください。

お問い合わせ先 北海道森林管理局 企画課 国有林モニター担当
TEL：011-622-5228 FAX：011-622-5194
<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>



北海道森林管理局は、大で大変豊かな森林を国民共通の財産として、世代を超えたさまざまなニーズに
応えられるよう、持続的な管理経営に努めるとともに、より豊かな姿で次の世代に引き継ぐことを使命として
おります。
北海道森林管理局のホームページ内では、「公売・入札情報」「知床世界自然遺産」「エゾシカ対策」「森もり！スクエア」「イベント情報」などの各サイト内において北海道国有林の情報をお届けしております。

広報 「北の森林 国有林」1月号
発行 北海道森林管理局
編集 総務企画部 企画課
〒064-8537 札幌市中央区宮の森3条7丁目70
I P 電話 050-3160-6300
電 話 011-622-5213
F A X 011-622-5194

<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

行事・イベント情報

〇一月十八日（月）
国有林野等所在市町村
長有志連絡協議会
（北海道森林管理局）
〇二月 四日（木）
五日（金）
北の国・森林づくり技術
交流発表会
（北海道大学「学術交流会館」）